

商店街の活性化への新たな取り組み

景気の後退や相次ぐ郊外型大型店の進出、組合員の高齢化や後継者不足など、商店街を取り巻く環境は一層厳しさを増している。このような中で、商店街にお客を取り戻そうと、県内の商店街は新たな取り組みを始めている。

今回のトピックスでは、大館市大町商店街振興組合と湯沢市柳町商店街協同組合の取り組みをご紹介します。

組合の自己財源でプレミアム商品券を発行！ ～大館市大町商店街振興組合～

定額給付金の発行に合わせ、県内は基より全国各地で商品券の発行が相次いでいるが、その多くは、プレミアム相当分が自治体の補助金により賄われているケースが多い。このような中で、大館市大町商店街振興組合（横井伸一理事長、111組合員）は、組合の自己財源により商品券を発行した。

同組合の泉浩二副理事長は、「需要の多いこの時期に合わせて出した方がいいとの判断で、自己財源による発行に踏み切った。市の補助金を待つのではなく、今後も自分達でできることはすぐに実行していきたい。」と話している。

【プレミアム商品券の概要】

同組合が用意した商品券は、5,000円で5,500円分の買い物ができる「定額給付金ハチ公プレミアム商品券」で、4月1日から発行している。

同商品券は、1セットで500円商品券が11枚綴りとなっており、1人につき4セットまで購入できるため、1人当たり最大2,000円のプレミアムが付く。同組合で用意した商品券は1,000セット（550万円分）で、4月1日から販売し、好評を得ている。

使用期限は4月1日から5月10日までで、商品券が使用可能な店舗は、組合員店舗約80店舗のうち61店舗に加え、非組合員の24店舗の合計85店舗となっており、店頭には商品券の取り扱いを示すポスターが掲示されている。



店頭に掲げられた商品券取扱参加店のポスター

消費者が使用した商品券は、4月20日と5月11日の2回、各店舗が組合の事務所で小切手と交換するしくみになっているが、その際、換金手数料を組合が徴収する。換金手数料は、組合員の場合が額面の5%で、非組合員は7%となっているが、非組合員が参加料として5,000円を支払った場合は、5%となる。

なお、今回発行した550万円分の商品券のうち、プレミアム分の50万円は、換金手数料と組合の一般会計により充当されることになっている。



【大館市大町商店街の今後の取り組み】

同組合では、近年、正札サイダー、ハチ公バーガー、ハチ公焼きといった商店街のオリジナル商品の開発・販売や、空き店舗を利用した産直品販売、農工商連携イベント「ハチ公食彩元気市」といった新たな取り組みも始めている。

今年度は、「ハチ公食彩元気市」を「ハチ公市民元気市」に名称変更し、「ハチ公」に関わる商品開発・販売（Tシャツ等）していく予定になっている。同組合では、大館市が忠犬ハチ公の生まれ故郷であることから、それをより前面に打ち出した商店街づくりを推し進めていく方針である。



比内地鶏と米粉のパンを使ったハチ公バーガー

**体験型の企画で市民の心をキャッチ！
「まちなか探検ツアー」の開催！**
～湯沢市柳町商店街協同組合～

湯沢市柳町商店街協同組合(飯塚哲夫理事長、47組員)では、平成20年2月から年3回程度のペースで「まちなか探検ツアー」を開催している。

このイベントは、ボランティアの観光ガイドと同組合の青年部員がツアーガイドとなり、参加者と一緒に商店街の店舗の商品や普段見ることの無いお店の裏側等を見て回るといったものである。

初回は昨年(平成28年)の2月、湯沢市の「犬っこまつり」の期間中に開催し、約50人が参加。参加者は、古くから残る小路などをツアーガイドの説明を聞きながら散策した。また、飲食店や酒店では試食や試飲ができる店舗もある他、畳



参加者募集用のチラシ

店での畳の制作体験、鞆店での革細工の体験など、体験型の企画を織り交ぜながら、参加者を楽しませた。

同イベントは内容を変えながらこれまでに5回開催し、毎回30人～40人程が参加するなど、好評を得ている。

同イベントを企画した組合の事業イベント委員長である中嶋和広さんは、「実際に店に入り、店の裏側を知ってもらうことで、大型にはない専門店の良さを十分にわかってくれるはず。このイベントは、すぐに劇的な効果が見える事業ではないが、お金をかけずに自分達で続けられることを行っていくことで、一人でも二人でも新しいお客さんが来てくれることを期待している。」と話している。



畳の制作体験の様子

本会の地域力連携拠点をご活用下さい！

～ご相談・専門家派遣は 無料 です！～

本会では、昨年に引き続き東北経済産業局から委託を受け、秋田県における「地域力連携拠点」となり、組合及び組員企業を中心とした県内中小企業の経営課題の解決に向けた活動を行っております。

具体的には、本会の応援コーディネーターが、他の中小企業支援機関等とのつながりを活かして、悩みを抱える中小企業や新しいことを始めたい中小企業等を訪問し、経営上の課題の正確・迅速な把握や、課題解決に向けた戦略の立案を支援すると同時に、必要に応じて県内外の専門家を派遣します。

組員企業単独の相談でも応じますので、傘下組員企業の皆様にも情報の提供をお願いします。

本拠点応援コーディネーターのご紹介



掛札 彰久氏
(掛札マネジメント
ラボラトリー代表)



高橋 重彰氏
(サポートS代表)

